次の【A】は『韓非子』の中の話を書き下し文にしたもの、【B】はその解説である。読んで、あとの問いに答えなさい。（①～⑦は段落の番号）

【A】楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。1之を誉めて曰はく、「吾が盾の堅きこと、能く陥すもの莫きなり。」と。又、其の矛を誉めて曰はく、「吾が矛の利なること、物に於いて陥さざる無きなり。」と。或るひと曰はく、「2子の矛を以て、3子の盾を陥さば何如。」と。其の人応ふること能はざるなり。

（注）楚＝昔の中国の国の名。鬻ぐ＝売る。堅きこと＝かたいことといったら。陥す＝突き通す。利なる＝するどい。何如＝どうなるか。能はざるなり＝できなかった。

【B】①【A】は、中国の戦国時代の終わりごろの思想家、韓非の考えをまとめた書物『韓非子』にある話である。今でもよく使われる「矛盾」ということばは、この話から生まれた。

②商人は、まず盾をほめて、どんなものでもこの盾を突き通すことはできない、と言った。次に矛をほめて、この矛はどんなものでも突き通す、と言った。どちらも、商品を売るためのじまんである。一つずつ聞けば、おかしなところはないように思える。

③ところが、そばで聞いていた人が、あなたの矛であなたの盾を突いたらどうなるのか、とたずねた。商人は答えることができなかった。もし矛が盾を突き通せば、「どんなものも突き通せない盾」という言葉がうそになる。突き通せなければ、「どんなものでも突き通す矛」という言葉がうそになる。どちらに答えても、自分の言ったことのどちらかが、まちがっていたことになってしまうのだ。

④このように、二つのことがらのつじつまが合わないことを、今では「矛盾」という。「早く寝よう」と言いながら、夜おそくまでゲームをしているというように、言っていることとしていることが合わないときにも使われる。

⑤或るひとの問いのするどさは、商人の二つのじまんを、一つの場面にまとめてみせたところにある。別々に聞けば気づかないことも、二つを組み合わせると、つじつまが合わないことがはっきりする。私たちも、それぞれは正しそうに見える二つの考えを並べてみることで、矛盾に気づくことがある。

⑥実は、韓非がこの話を書いたのは、商人をからかうためではない。昔の中国で理想の王として知られていた、堯と舜の二人を、4両方ともほめたたえる人々の考えを批判するためであった。舜は、世の中のさまざまな問題を直して、人々を正しく導いたとして、ほめられていた。しかし、舜の前に国を治めていた堯が完ぺきな王だったのなら、舜が直さなければならない問題など、はじめからなかったはずだ。二人を同時にほめるのは、どんな矛も防ぐ盾と、どんな盾も突き通す矛を、同時にじまんするのと同じだ、というのである。

⑦故事成語には、このように、短いことばの中に一つの話がまるごとつまっている。たとえば「五十歩百歩」は、戦場で五十歩逃げた兵士が、百歩逃げた兵士を笑ったという話から生まれた。もとの話を知ると、ことばの意味がよくわかり、使い方もまちがえにくくなる。ことばの向こうにある物語にも、目を向けてみたい。

（【A】『韓非子』による　【B】創心館オリジナル文章）

問一 1之は何を指しているか。【A】の中から一字で抜き出しなさい。

□

問二 2子の意味として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　子ども　　イ　あなた　　ウ　先生　　エ　自分

□

問三 3子の盾を陥さばは、白文「陥子之盾」を書き下し文にしたものである。書き下し文の読み方になるように返り点をつけたものとして正しいものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　陥子之盾レ　　イ　陥子之盾レ　　ウ　陥子之盾二一　　エ　陥子之盾二一レ

□

問四 第③段落で、商人が答えられなかった理由を次のようにまとめた。a・bに入ることばを、第③段落からaは十三字、bは十二字で抜き出しなさい。

矛が盾を突き通せば「[a]」という言葉が、突き通せなければ「[b]」という言葉が、うそになってしまうから。

a □□□□□□□□□□□□□

b □□□□□□□□□□□□

問五 「矛盾」の使い方として最も適切なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　兄と弟が同じおかしをほしがって、二人の間に矛盾が起きた。
イ　「時間がない」と言いながら、ずっとテレビを見ているのは矛盾している。
ウ　強い矛と強い盾を両方そろえたので、矛盾のない守りになった。
エ　大事な試合の前日なので、矛盾して早めに寝ることにした。

□

問六 4両方ともほめたたえる人々の考えを批判するためとあるが、韓非は、堯と舜の二人を同時にほめることがなぜおかしいと考えたのか。「完ぺき」「問題」という二つのことばを使って、四十字以上、五十字以内で書きなさい。

□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□
□□□□

問七 【B】の第⑦段落で、筆者は、故事成語のもとの話を知るとどのようなよいことがあると述べているか。二つ、それぞれ本文中から抜き出しなさい。（aは十二字、bは十三字）

a □□□□□□□□□□□□

b □□□□□□□□□□□□□

解答（答えと短い解き方）

漢文の返り点・書き下し標準② 故事成語「矛盾」

本文の読解

問一 盾

「楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り」のあと「吾が盾の堅きこと」と続くので、まずほめたのは「盾」。

問二 イ

漢文の「子」は「あなた」の意味で使われることがある。或るひとが商人に向かって言っている。

問三 ウ

読む順番は「子→之→盾→陥」。「陥」は三字下の「盾」から返るので、一・二点を使う。

問四 a　どんなものも突き通せない盾　　b　どんなものでも突き通す矛

第③段落の、突き通せば・突き通せなければ、どちらかの言葉がうそになる、という部分から抜き出す。

問五 イ

「矛盾」は、つじつまが合わないこと。イは「時間がない」という言葉と行動が合っていない。

問六 （例）堯が完ぺきな王なら、舜が直すべき問題はなかったはずで、二人を同時にほめるのはつじつまが合わないから。

第⑥段落「堯が完ぺきな王だったのなら、舜が直さなければならない問題など、はじめからなかったはずだ」。

問七 a　ことばの意味がよくわかり　　b　使い方もまちがえにくくなる

第⑦段落の「もとの話を知ると、ことばの意味がよくわかり、使い方もまちがえにくくなる」から抜き出す。